

*Spring Concert*

# LA MANO QUINTET

ラ・マーノ 五重奏団  
～ クラリネット五重奏の魅力 ～



2015年4月26日(日)

13:00 開場 13:30 開演

横浜みなとみらいホール 小ホール

*Yokohama Minato Mirai Hall Small Hall*

## ~ Program ~

### アイネ・クライネ・ナハトムジーク ト長調 K.525 … モーツァルト

W.A.Mozart / *Serenade, Eine kleine Nachtmusik, in G Major K.525*

第1楽章：アレグロ、ソナタ形式 ト長調 4/4 拍子

第2楽章：ロマンツェ (アンダンテ) 三部形式 ハ長調 2/2

第3楽章：メヌエットとトリオ (アレグレット) ト長調 3/4 拍子

第4楽章：ロンド (アレグロ) ロンド形式 ト長調 2/2 拍子

### 序奏、主題と変奏 変ロ長調 … キュフナー (伝ウェーバー)

J.Küffner (C.M.von Weber) / *Introduction, Theme and Variations in B-flat Major*

休憩

### クラリネット五重奏曲 ロ短調 Op.115 … ブラームス

J.Brahms / *Clarinet Quintet in B Minor Op.115*

第1楽章：アレグロ (ロ短調、6/8 拍子、ソナタ形式)

第2楽章：アダージョ (ロ長調～ロ短調～ロ長調、3/4 拍子、三部形式)

第3楽章：アンダンティーノ (二長調の間奏曲、4/4 拍子)

第4楽章：コン・モート (ロ短調、2/4 拍子、変奏曲形式)

## ~ Profile ~



橋田 はるな *Haruna Hashida* クラリネット

武蔵野音楽大学在学中に奨学金を得てピッツバーグ・デュケイン大学留学、B. ジャクソン氏に師事。帰国後、定期的に欧州各地にて音楽祭やワークショップに参加し、研鑽を積む。02、04、09、11年、大倉山水曜コンサートにてリサイタル開催。現在ソロ、室内楽、オーケストラの活動の他、横浜のサンモール・インターナショナルスクールにて講師を務める。



守田 マヤ *Maya Morita* ヴァイオリン

第5回かながわ学生コンクール中学生の部最優秀賞、あわせて市長会長賞を受賞。東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。これまでにヴァイオリンを小林武史、澤和樹、小林健次、室内楽を日高毅、林俊昭、坪田昭三、漆原啓子、また海外音楽祭等でドーラ・シュヴァルツベルク、トーマス・クリスチャン、イヴリー・ギトリスの各氏に師事。現在は演奏活動の傍ら、後進の指導に力を入れている。スズキ・メソッド指導者。



舘石 奈未子 *Namiko Tateishi* ヴァイオリン

3歳よりヴァイオリンを始める。跡見学園女子大学 美学美術史学科を経て、東京芸術大学 別科 ヴァイオリン科、ヴィオラ科修了。これまで、数々のコンクール・オーディションに入賞。ヴァイオリンを松原勝也、ヴィオラを小野富士、佐々木亮の各氏に師事。ソロ・室内楽等の音楽活動を行うと共に、後進の指導にあたる。



川沼 顕 *Ken Kawanuma* ヴィオラ

栃木県宇都宮市出身。スズキ・メソッド指導者である父の指導の下ヴァイオリンを始める。日韓合同によるスズキ・メソッドストリングオーケストラのコンサートマスターとして、国内及び韓国各地にて演奏旅行を行う。国立音楽大学を卒業後、スズキ・メソッドヴァイオリン指導者としてレッスンや弦楽団の指揮をする傍ら室内楽を中心とした演奏活動も行っている。



宮坂 俊一郎 *Shunichirou Miyasaka* チェロ

長野県千曲市出身。国立音楽大学卒業。フィンランド、クフモミュージックキャンプに参加。国立音楽大学演奏補助員、非常勤講師を経て現在、高崎経済大学附属高等学校非常勤講師。チェロアンサンブル 008-huit、アンサンブル・クヴェレ、アンサンブル・ノーヴァ、足利カンマーオーケスターのメンバー。また、ソロ、室内楽など、幅広く活動している。群馬県高崎市在住。 <http://ce008.jp>

## ~ Liner notes ~

..... アイネ・クライネ・ナハトムジーク ト長調 K.525 … モーツァルト .....

はじめの二小節を聴けば誰しもうなずくあの名曲。弦楽合奏で演奏されることが多いが、大合奏にはあまり似合わない軽やかな曲である。そもそも曲名の意味は「アイネ(冠詞)・クライネ(小さな)・ナハト(夜の)・ムジーク(音楽)」で、夜中に大編成でやられてはたまらない。弦楽四部で演奏できるが、曲種としては、弦楽四重奏(カルテット)ではなく、セレナーデに分類される。セレナーデはもともと、恋する人の窓の下でギターを鳴らしながら愛を語る曲。のちに變形して器楽曲になり、必ずしも愛を語るには向かなくなるが、モーツァルトの場合、カルテットはかなり音楽的に厳格で作りこんだ感じがするのに対し、セレナーデは伸びやかで、とりわけこの曲には、彼の他のどの作曲家にも真似できない天真爛漫さが遺憾なく発揮されている。本来は全五楽章だったと考えられ、一楽章散逸してしまったようだが、残された四つの楽章すべてが長調であるにもかかわらず、聴き手を退屈させることがない。

..... 序奏、主題と変奏 変口長調 … キュフナー (伝ウェーバー) .....

一方、この曲は、作曲者名からしてほとんど知られていないのではないだろうか。「キュフナー」のうしろに(伝ウェーバー)となっているのは、無名のキュフナーよりも、高名なウェーバーの名を冠した方が楽譜がたくさん売れるだろう、という出版社のたくらみだった。キュフナーがウェーバーのゴーストをしていた訳ではない。しかし、ほとんど歴史に埋もれてしまった彼の曲のなかで、これだけは未だにクラリネット奏者の愛奏する曲となっているのは、ウェーバーの名前のおかげかもしれない。キュフナーも今頃複雑な気分だろう。タイトルのおり、ゆったりとした序奏のあとに、主題と六つの変奏がつづく。変奏曲というのは、器楽の場合、その楽器の技巧を披露する役目がある。モーツァルトより二十歳ほど年下のキュフナーの頃には、楽器演奏を専門の仕事にする人が増え(それまで多くの演奏家は、演奏のないときには料理や庭仕事をして君主に仕えていた)、技術も向上し、腕前を競うようになった。この曲も、クラリネットという楽器のさまざまな可能性を追求しており、変奏それぞれの色合いの違いを楽しみたい。

..... クラリネット五重奏曲 口短調 Op.115 … ブラームス .....

クラリネット五重奏曲の旧約聖書がモーツァルトなら、新約聖書はブラームス。とは、たぶんまだ誰も言っていないと思うが、それくらいの名曲。室内楽曲にあまりはずれないブラームスのなかでも、クラリネットを用いた四曲(他はソナタ二曲、トリオ一曲)は名曲揃い。クラリネット奏者にとってはなくてはならないレパートリーだが、さらにそのなかで1曲選べと言われればこれだろう。第一楽章冒頭のクラリネットが上昇音型で登場するところまでのパッセージだけでご飯二杯くらいいけそうなほど泣ける。クラリネットのもつ哀愁を帯びた響きをこれほど生かした曲もない。四つの楽章全体を通じてどこまでも沈鬱で、音のたゆたいのなかに希望や憧れを垣間見せつつも、やはり最後は深く深く沈んでゆく。とって、なんだか暗くて聴いて辛くなるのではという懸念は無用。むしろ沈んだときには暗くて重いものの方が気分をスッキリさせてくれるのだ、とアリストテレス先生は二千年以上も前から言っていた。第四楽章の最後の音が尾を引きつつホールから消え失せたあと、拍手を三秒だけ待って余韻に浸ってみよう。帰路の足取りはかえって軽くなっていることに気づくに違いない。

[伊藤 氏貴]